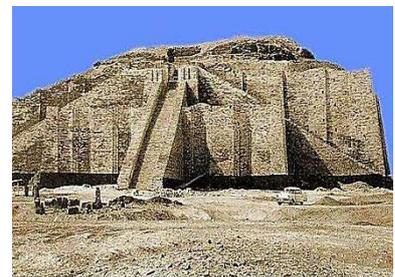


## 057 ナツメヤシ（棗椰子）

ナツメヤシ（学名：Phoenix dactylifera）はヤシ科ナツメヤシ属の常緑高木。果実（デーツ、Dates）は北アフリカや中東では主要な食品（各種ビタミンやミネラルが栄養豊富で、動脈の浄化等の健康効果、美容効果があるドライフルーツ）の1つであり、この地域を中心に広く栽培が行われている。樹高 15～25m、雌雄異株で、単独で生長することもあるが、場合によっては同じ根から数本の幹が生え群生する。葉は羽状で、長さは3mに達する。葉柄にはとげがあり、長さ 30cm、幅 2cm ほどの小葉が 150 枚ほどつく。実生 5 年目位から実をつけ始める。樹の寿命は約 100 年位であるが、樹齢 200 年に達することもある。



メソポタミア（チグリス川とユーフラテス川の間）の沖積平野で、現在のイラクの一部にあたる）や古代エジプトでは BC 6 千年紀（BC6000 年～BC5001 年）には既に栽培されていたとされており、ウルの遺跡※1からは、ナツメヤシの種が出土している。



※1：BC4500 年代～BC400 年代、イラクのナーシリーヤ市の近くにあり、テル・エル＝ムカイヤル Tell el-Mukayyar、ムカイヤルの丘と呼ばれている。シュメール（メソポタミア南部を占めるバビロニアの南半分）の都市の中でも極めて重要な都市遺跡である。

聖書の「命の木」（創世記 2：9）のモデルといわれている。シュメールでは「農民の木」とも呼ばれ、アッシリアの王宮建築の石材に刻まれたレリーフ（浮彫）に、ナツメヤシの人工授粉と考えられる場面が刻まれている。アラブ人の伝承では大天使ガブリエルが楽園でアダムに「汝と同じ物質より創造されたこの木の实を食べよ」と教えたと言われる。



レバノン杉が高貴さを表すとえに用いられるように、ナツメヤシはまっすぐ天に向かって伸びる姿から「義人」にたとえられ、また「優美」と「勝利」、「祝福」の象徴とされている。

「神に従う人はなつめやしのように茂り／レバノンの杉のようにそびえます。／主の家に植えられ／わたしたちの神の庭に茂ります。／白髪になってもなお実を結び／命に溢れ、いきいきとし述べ伝えるでしょう／わたしの岩と頼む主は正しい方／御もとには不正がない、と。」（詩篇 92：13～16）

聖書に登場する「なつめやし」は、棕櫚（シュロ）以外のヤシ科植物が一般的ではなかったため、しばしば「シュロ」、「棕櫚」と翻訳され、使用されている。

シュロ（棕櫚、棕栂、櫻櫚）は、ヤシ目ヤシ科ヤシ属の総称である。常緑高木。排水良好な土地を好み、乾湿、陰陽の土地条件を選ばず、耐火性、耐潮性（飛来塩分に対する耐性）も併せ持つ強健な樹種である。生育は遅く、管理が少なく済むため、手間がかからない。シュロという名は、狭義には、「ワジュロ」の別名、広義には、他の様々なヤシ科植物を意味することもある。果実は棕櫚実（しゅろじつ）と呼ばれ、漢方薬として、下痢などに用いられるが、高血圧治療にも効果があるとされる。葉は軽く焙じたものをお茶にして利用したりもする。

